

新潟市立中央図書館 ビジネス支援サービス

気軽さに利用広がる

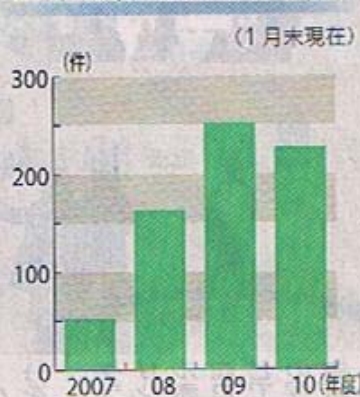


中小企業診断士と 司書がペアで対応

中小企業診断士と司書がペアで対応する新潟市立中央図書館の「起業・経営相談会」。利用者からは「相談しやすい」と好評だ。同市中央区

起業相談会の開催や、ビジネス関係の資料提供など、新潟市立中央図書館(ほんほーと)が「ビジネス支援サービス」を充実させ、利用する市民も増えている。相談会は毎回予約で埋まり、実際に起業に至った例もある。利用者は「専門機関より気軽に相談できる」と評価。調査相談(レファレンス)件数も2007年の開館から右肩上がりに伸びている。(報道部・鈴木孝史)

ビジネスに関するレファレンス件数



「スポーツ教室を運営したいんですけど」。同市中央区の無職男性(40)が尋ねると、担当の中小企業診断士は「まず集客のイメージやターゲットを絞ること。ス、司書が関連資料の提示とそれぞれの専門分野を必要がある」と説明。司書が個人経営に関する本を

「アドバイザー」で拡大。ほんほーとも、市民の課題解決に当り、10年度も1月末現在で既に226件に上る。レファレンスの一環として

ケティンクの資料などを司書に依頼し、起業と商品開発にこぎ着けた。「情報収集が早く、予想以上の答えを用意してくれた。もし利用していなければ、また起業できていなかった」と振り返る。

ビジネスに関するレファレンスは資料の検索依頼のほか、業界の事情や動向など幅広い相談に対応している。07年度51件、08年度162件、09年度251件と伸び、10年度も1月末現在で既に226件に上る。レファレンスの一環として

相談会を経て起業も

情報集積生かし早い調査

5冊差し出した。ほんほーとが月3回開いている「起業・経営相談会」での一コマ。中小企業診断士が、書籍、地図、統計年表など多様な資料を所蔵する公立図書館のビジネス支援は、10年ほど前から全進めていけばいいか詳しく分かった。役に立ったかの祖父江陽子さん(38)は「図書館は足を運びやすいためか、当初は予約で3カ月待ちだったこともある」と話す。

一方、ビジネス支援の方向性が起業に偏っている。単発の相談で終わるケースがほとんどだが、起業という課題もある。八木秀夫館長は「ビジネス支援は本来、経営面や就職な会社を設立した相馬理恵さん(35)は2年専門性を高めながら取り組む、相談会に参加。多いと組んでいきたい」としている。

日曜

ひろば

きほ週2回ほど通い、マーる。